

## 小学校学習指導要領「総合的な学習の時間」指導の要点と課題 ～「総合的な学習の時間解説編」の語句分析を中心にして～

中 島 正 明

A Consideration of Teaching the Course of Study Commentary  
(Elementary School) in a University Teacher Training Course

Masaaki NAKASHIMA

### 要 旨

平成29年学習指導要領改訂の大きな目玉は、総合的な学習の時間である。学習指導要領本文(4頁)に対して、解説編はその43倍の139頁と大部である。

今回、教員養成課程での指導の在り方を検討する目的で、「総合的な学習の時間解説編」を対象にして、語句分析を行った。言葉の分析を通して判明したことは、(1)合計2,440の語句(2)125のカタカナ語(3)113通りの「的」(4)難解・難読語句の使用(5)「重要である」「大切である」の多用などが明らかとなった。

教員養成課程での指導では、担当者に教育学以外に幅広い専門性が必要なこと、解説を丁寧にきちんと指導するための改善点や具体的方法等について要点と課題を提示した。

キーワード：総合的な学習の時間、学習指導要領解説、語句分析、主体的・対話的で深い学び、課題

### 1. はじめに

2017年2月15日、新学習指導要領の改訂内容が一斉に新聞報道された。「生きる力の育成」に主眼を置いた現行の学習指導要領から、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて、新しい教育ビジョンが提示された。

パブリックコメントの期間を経て、2017年6月に、文部科学省より、小中学校の学習指導要領改訂版が告示された。同時に、教育関係専門誌は学習指導要領改訂の特集を組み、各出版社は改訂の趣旨と各学校の課題、新旧学習指導要領の変更点などに特化したガイドブックを次々と刊行し始めた。新学習指導要領の要点は何か、何が、どのように変わったのか、などはそれらの「解説本」に任せたい。

学習指導要領及び学習指導要領解説について、どうしても不明な点がある。学習指導要領は、告示からおよそ10年後の社会を想定して国民形成にとって不可欠な教育内容形成の国家基準として国民に告示される。学習指導要領の内容は、具体的には教科書という形で学校教育に展開される。

改訂の趣旨と要点は、都道府県教育委員会による伝達講習会、さらに各市町・地区での教育糧

講習会などによって、各学校に、全職教員に向けて伝達されていく。3年間という限られた期間内に新課程への移行を実現しなければならない学校にとって、喫緊の課題である。

それでは、新任教員を送り出す教員養成課程において、学習指導要領及び学習指導要領解説は、どのように教育指導されているのだろうか。教員養成課程では、受講に向けて学生は、学習指導要領及び学習指導要領解説を買い求めることを指示される。つまり、全員が持っている。ところが、いくつかの大学のシラバスを散見してみると、学習指導要領解説の指導が組み込まれているのは、ごく一部の領域。教科であり、しかもごく少ない回数でしかない。それだけで、どのようにして必要な基本的な知識・事項を提示することができるのだろうか。

安易に学習指導要領解説の「解説本」に頼ったり、自分の得意な部分・理解できる部分のみを講義して、あとは「実践的指導力」の育成と称して模擬授業を展開したりする傾向はないのだろうか。シラバスから判断する限り、大学の学習指導要領解説の教育の内容と方法とに改善の余地は十分認められる。

教員養成課程における現状と今後の学校教育の在り方をを勘案すれば、学習指導要領・及び解説を教員養成課程においていかに「丁寧に」教育指導するかが教育界の喫緊の課題であり、学力不足やその他の教育問題の解決に向けた基本的な道筋であると考ええる。

学習指導要領解説の指導を困難にしている大きな理由は、膨大な内容量に比較して、目次の表記が簡潔すぎること、巻末に語句索引がないために必要な事項を即座に確認したり記述を比較・検討したりすることができないことである。

本研究は、語句分析という方法を通して「読みもの」として学習指導要領解説のもつ特性を明らかにするとともに、教員養成課程において「総合的な学習の時間」指導の要点と課題とを提示することを目的としている。総合的な学習の時間解説編の教育学の立場からの内容分析・解釈等は、他の論考・著作に委ねたい。

## 2. 研究の方法

### (1)学習指導要領及び学習指導要領解説の頁数・文字数の調査

表1：学習指導要領・解説の頁数と文字数（スペースなしの概数）

区分	要領 H29		解説				比率 B/A	
	頁数	文字数A	頁数	文字数	頁数	文字数B		
第1章 総則	11	10,414	107	87,056	148	142,667	13.70	
第2章 各教科	国語	16	12,851	135	102,328	167	154,726	12.04
	社会	17	16,571	126	97,911	146	160,062	9.66
	算数	30	25,555	221	157,381	332	314,815	12.32
	理科	17	14,408	86	65,256	99	94,733	6.58
	生活	4	3,269	78	62,752	94	100,318	30.69
	音楽	12	9,876	95	67,788	125	120,351	12.19
	図画工作	7	5,996	86	64,688	125	119,332	19.90
第3章 道徳	家庭	6	4,983	77	58,186	78	78,867	15.83
	体育	14	12,406	94	71,335	187	168,291	13.57
	外国語	9	6,781			82	48,499	7.30
第3章 道徳	8	5,165	123	117,169	114	106,137	20.55	
第4章 外国語活動	6	4,241	29	23,271	57	48,692	11.48	
第5章 総合的な学習の時間	4	3,028	125	96,255	139	131,532	43.44	
第6章 特別活動	7	5,584	123	117,898	160	154,362	27.64	

## (2)総合的な学習の時間を選択した理由

「総合的な学習の時間」を選んだのは、次の理由による。

- ①今回の改訂に伴い、総合的な学習の時間解説編に初めて「読書指導」という語句が使用されたこと。そこで、総合的な学習の時間と読書指導との関係をどのように捉え、解説しているのか関心があった。
- ②要領の本文に比較して解説編の本文がきわめて膨大なこと。
- ③教員養成課程において、総合的な学習の時間だけに内容を特化した科目が見当たらないこと。指導上の要点や課題を見いだす必要がある。

## (3)学習指導要領解説データベース構築

ファイルメーカープロを使用して、著者がデータベースを作成した。

## (4)総合的な学習の時間解説の全文入力

- ①対象とした資料は、平成29年6月文部科学省によって告示された新学習指導要領解説総合的な学習の時間編のウェブ版である。

## (5)総合的な学習の時間解説語句分析

- ①語句の取り出しは、一貫性を保つために、最初から最後まで著者が一人を担当した。
- ②語句の取り出しは、名詞、動詞、副詞、形容詞、形容動詞、四字熟語、格言、その他などできるかぎり多様な語句とした。
- ③語句の排列は、英文字表記(8)、カタカナ表記(125)、漢字かな表記(2,307)に3区分し、各表記のひらがな読み50音順とした。

## 3. 結果の概要

## (1)語句分析の概要A(数字で見る解説の姿)

- ①全語句数 総合的な学習の時間解説の本文の総頁数は139、総文字数は131,532文字であった。

表2：全語句の区分

表 記	語句数
英 文 字	8
カタカナ	125
漢字かな	2,307
合 計	2,440

語句の総数は2,440となり、その内訳は表2に示すとおりである。

小項目主義を採用しているため、例えば「学校」については、「学校行事」「学校教育法」「学校段階」など20の学校で始まる語句を項目として採用した。

さらに、活用と活用・発揮、資質と資質・能力など、単独の語句と中点で結合した熟語として使用される場合との両方を項目とした。

## ②全体で頻度の高い語句

全体で出現する頻度の高い語句から降順に並べてみると、表3に示すとおり、「学習」「児童」「時間」「活動」「総合的な学習の時間」「学校」「探究」が250回以上で上位を占める。第1位「学習」と第3位「時間」は「総合的な学習の時間」に含まれる語句なので、それらを除くと、順位は「児童」「活動」「総合的な学習の時間」と入れ替わることになる。

先頭グループ以下では、総合的な学習の時間を象徴する語句が展開する。

第2群 課題、能力、学習活動、資質・能力

第3群 指導、育成、必要、目標、解決

第4群 内容、計画、教育、活用、教科

第5群 適切、探究的な学習、各学校、具体、情報、地域、社会

表3 頻度の高い語句上位30項目

順位	語句	頻度	順位	語句	頻度		
第1群	1	学習	559	第5群	21	教科	140
	2	児童	332		22	適切	139
	3	時間	330		23	探究的な学習	137
	4	活動	315		24	各学校	134
	5	総合的な学習の時間	279		25	具体	134
	6	学校	259		26	情報	133
	7	探究	251		27	地域	128
第2群	8	課題	236		28	社会	120
	9	能力	215		29	具体的	116
	10	学習活動	207		30	設定	115
第3群	11	資質・能力	200		31	実現	109
	12	指導	196		32	重要	109
	13	育成	190		33	例えば	109
	14	必要	188		34	目指す	103
	15	目標	181		35	過程	97
	16	解決	153		36	表現	93
第4群	17	内容	149		37	が考えられる	92
	18	計画	148		38	大切	92
	19	教育	145		39	関連	87
	20	活用	144		40	単元	87

## ③カタカナ表記

社会の国際化、情報化が進むにつれて日常用語の中にカタカナ表記が増えてきたことは間違いない。身の回りの様子を少し振り返ってみればカタカナの氾濫のなかで生活していることに気がつく。したがって、パソコン、コンビニ等どうしてもカタカナを使用しなければならない場面は存在する。

総合的な学習の時間解説編において、カタカナ用語を分野・頻度別に示したのが表4である。カタカナ用語全体の数は125語であった。

表4からは、情報活用能力関係 [44] 学習指導関係 [24] 心理関係 [21] の語句が7割以上を占めている。学校経営関係は9語と意外に少なかった。

情報活用能力関係のうち、ウェビング、コーディング、サイト、ビッグデータ、フォルダなどは、耳にする機会はあるが、意味を説明するのは困難な語句である。

学習指導関係についてみると、パケットテスト、カプセルトイは学校教師の世界では何気ない用語であろうが、一般にはなじみの少ない語句である。

インクルーシブ、キー・コンピテンシー、モデレーションは、とりわけ難解な語句である。使用に当たって、その場で分かりやすい説明が求められる。

どうしてもカタカナでなければ表現できないものはあるが、ポイントやプロセスなど日本語に置き換える方が意味のわかりやすい、理解しやすいものがあることを忘れてはならない。

表4：カタカナ用語の分野・頻度別順位

一般に使用される語句 [20]	09 プレゼンテーション	7	07 ワークシート	4	
01 プロ	27	10 タブレット	5	08 パックテスト	2
02 ワーク	16	11 プログラム	5	09 ポスター	2
03 グループ	14	12 デジタルカメラ	4	10 イベント	1
04 ポイント	12	13 スキル	3	11 イラスト	1
05 システム	6	14 ソフト	3	12 カプセルトイ	1
06 センター	6	15 ワークショップ	3	13 セミナー	1
07 ツール	6	16 アクセス	2	14 トンボ	1
08 スペース	4	17 エネルギー	2	15 ノウハウ	1
09 チーム	3	18 デジタルコンテンツ	2	16 ノート	1
10 テーマ	3	19 ビデオ	2	17 パンフレット	1
11 ページ	3	20 ファイル	2	18 ファイルボックス	1
12 メダカ	3	21 フィールド	2	19 ブドウ	1
13 リスト	3	22 プロジェクター	2	20 ペーパーテスト	1
14 ゴミ	2	23 アプリケーションソフト	1	21 ボタン	1
15 アンテナ	1			22 メンバー	1
16 オープン	1	24 ウイルス	1	23 ライフライン	1
17 キャリア	1	25 ウェビング	1	24 ローマ字	1
18 コメント	1	26 ウェブページ	1	<b>難読・難解語句 [3]</b>	
19 ジュース	1	27 コーディネート	1	インクルーシブ	1
20 スポーツ	1	28 コーディング	1	キー・コンピテンシー	1
<b>学校経営関係 [9]</b>		29 サーバー	1	モデレーション	1
01 カリキュラム	22	30 サイト	1	<b>心理関係 [21]</b>	
02 マネジメント	20	31 スマートフォン	1	01 イメージ	12
03 カリキュラム・マネジ メント	19	32 セキュリティ	1	02 リーダーシップ	9
04 コミュニティ・スクール	4	33 ソフトウェア	1	03 コーディネーター	8
		34 テレビ会議システム	1	04 バランス	8
05 サイクル	2	35 テレビモニター	1	05 コミュニケーション	7
06 ティーム・ティーチング	2	36 ビッグデータ	1	06 ボランティア	7
		37 ビデオカメラ	1	07 ビジョン	5
07 ミドルリーダー	2	38 フォルダ	1	08 ポートフォリオ	4
08 アクティブ・ラーニング	1	39 マスメディア	1	09 モラル	4
		40 ミーティングテーブル	1	10 アイデア	3
09 スタッフ	1	41 メール	1	11 アドバイス	3
<b>情報活用能力関係 [44]</b>		42 メディアセンター	1	12 グローバル	3
01 コンピュータ	21	43 ロボット	1	13 ゴール	3
02 ネット	17	44 ワープロ	1	14 アンケート	2
03 インタビュー	12	<b>学習指導関係 [24]</b>		15 ニーズ	2
04 プログラミング	10	01 プロセス	13	16 シンボル	1
05 インターネット	9	02 ビオトープ	7	17 ストレス	1
06 ネットワーク	9	03 レポート	6	18 スムーズ	1
07 データ	7	04 カード	5	19 タイミング	1
08 デジタル	7	05 グラフ	5	20 パートナー	1
		06 デザイン	4	21 バリア	1

## ④「的」の多用

カタカナ表記に続いて、○△のという語句の多用が目される。

一般的、具体的、主体的、横断的、効果的、積極的、計画的などは日常良くみかける表記である。日本語として、名詞+的は正しい使い方である。

本文139頁に対して、探究的167、具体的116、主体的68、横断的58カ所は、多すぎはしないだろうか。探究的と具体的とは、139で除するとそれぞれ1.20、0.83となり、計算上全頁に出てくることになる

表5：「的」の頻度別順位

001 探究的	167	039 一面の	3	076 間接的	1
002 具体的	116	040 客観的	3	077 観念的	1
003 主体的	68	041 視覚的	3	078 基礎的	1
004 横断的	53	042 時間的	3	079 共感的	1
005 協働的	36	043 自律的	3	080 協同的	1
006 効果的	32	044 端的	3	090 空間的	1
007 積極的	31	045 連続的	3	091 形式的	1
008 基本的	29	046 安定的	2	092 系統的	1
009 対話的	27	047 一般的	2	093 肯定的	1
010 質的	20	048 拡散的	2	094 事実的	1
011 発展的	18	049 感覚的	2	095 自主的	1
012 教科等横断的	17	050 関連的	2	096 実感的	1
013 計画的	17	051 結果的	2	097 社交的	1
014 組織的	11	052 国際的	2	098 集中的	1
015 論理的	11	053 固定の	2	099 自立の	1
016 意識的	10	054 個別の	2	100 心理的	1
017 意図的	10	055 持続的	2	101 数学的	1
018 現代的	10	056 実践的	2	102 世界的	1
019 多面的	10	057 自発的	2	103 全校的	1
020 人的	9	058 集団宿泊的	2	104 潜在的	1
021 弾力的	9	059 重点的	2	105 専門的	1
022 物的	9	060 情意的	2	106 相互依存的	1
023 教育的	8	061 身体的	2	107 短期的	1
024 概括的	7	062 数値的	2	108 長期的	1
025 概念的	7	063 精神的	2	109 調和的	1
026 継続的	7	064 体験的	2	110 伝統的	1
027 効率の	7	064 段階的	2	111 統計的	1
028 創造的	6	065 抽象的	2	112 能動的	1
029 多角的	6	066 定期的	2	113 比較的	1
030 日常的	6	067 統合的	2	114 必然的	1
031 意欲的	5	068 道德的	2	115 飛躍的	1
032 構造的	5	069 内省的	2	116 表面的	1
033 直接的	5	070 複合的	2	117 文化的	1
034 汎用的	5	071 普遍的	2	118 平均的	1
035 問題解決的	5	072 量の	2	119 奉仕的	1
036 意図的	4	073 開放的	1	120 網羅的	1
037 科学的	4	074 画一的	1	121 理想的	1
038 知的	4	075 関係的	1		

さらに、問題解決的、集団宿泊的などは、その後続く語句からすると、それぞれ「問題解決に焦点を当てた」、「集団宿泊に類する又は準ずる」などの表記の方が適切であろう。

数値的、内省的、関係的、事實的、奉仕的などは、読んだ際に見わかったような感覚を与えるが、使用場面での曖昧さを伴うので、結果として意味のわかりにくさにつながるであろう。

### ⑤難読・難解表記

一部の学生を対象にして調査した結果、カタカナ用語で「聞いたことがない」のは「ウェビング」「バックテスト」「モデレーション」の3語、「聞いたことはあるがわからない又は説明できない」は残りの6語、漢字熟語で読めなかったのは「往還」「截然」「俯瞰」であった。

表6 難解・難読語句の一覧

(1)アクティブ・ラーニング	(11)往還
(2)インクルーシブ	(12)涵養
(3)ウェビング	(13)自尊感情
(4)カリキュラム・マネジメント	(14)醸成
(5)キー・コンピテンシー	(15)所管
(6)コミュニティ・スクール	(16)精査
(7)バックテスト	(17)精緻
(8)ポートフォリオ	(18)截然
(9)モデレーション	(19)踏襲
(10)遠隔交流	(20)俯瞰

### (2)語句分析の概要B（氾濫する独特の表記）

#### ①重要である。[64カ所、②は同一頁に2カ所]

4,12,15,16③,20,21,33②,34②,35,36,37,40,45②,46,47②,48,52,54,58②,59,65,67②,76,82,83②,89,90,94,95,98,103②,106,108,109,110,111③,113,118,120③,121②,122②,123,130,136,137②,139

#### ②大切である。[58カ所、③は同一頁に3カ所]

12,15,23,24,30②,32,34,36②,37,38②,46,49③,52,55②,59,64,67,87②,88,89,90,93②,94,97,99②,100,102,104,110②,119,121②,125②,126,128,129,130②,131,134,135,136,138③,139

#### ③とは～である。[59カ所]

012頁：学習指導要領とは、

018頁：学校において教育課程を編成するということは、

027頁：「自己の生き方」を考えると、

028頁：「主体的な判断の下に行動」するとは、

029頁：豊かな心とは、

### (3)語句分析の概要C（定義の説明）

探究的な学習は、9頁で簡潔に説明されるものの、その後にはなんら表現がなく、「解説」の本文を三分の二ほど読み進めた105頁で再び定義と思われる表現が出てくる。「主体的な学び」「対話的な学び」についても定義の紹介が。

#### ①「探究的な学習」とは

009頁：探究的な学習とは、物事の本質を探って見極めようとする一連の知的営みのことである。

105頁：探究的な学習とは、日常生活や社会に生起する複雑な問題について、その本質を探

って見極めようとする学習のことであり、問題解決的な活動が発展的に繰り返されていく一連の学習活動のことである。

②「主体的な学び」とは

105頁：「主体的な学び」とは、学習に積極的に取り組ませるだけでなく、学習後に自らの学びの成果や過程を振り返ることを通して、次の学びに主体的に取り組む態度を育む学びである。

③「対話的な学び」とは

106頁：「対話的な学び」とは、他者との協働や外界との相互作用を通じて、自らの考えを広げ深めるような学びである。

④「主体的な学び」「対話的な学び」に続けて「深い学び」とはの定義を期待したが、見当たらない。

(4)語句分析の概要D (重複する表記)

①取捨・選択	1	13
取捨選択	2	16,72
②取り扱い	1	139
取扱い	8	4,5,18,22②,33,44,104
③取り組み	10	9,16,23,25,42,44,70,74,100,134
取組	34	3,4②,6,9,15,19,35,36,40,54,62,66,71,85, 88,100③,102,103,118②,122,123,128, 134,137⑤,138,139
④話し合い	1	87
話し合い	8	30,78,100,103,109,114,11
⑤ふさわしい	39	1,6,11,19,21③,26③,27③,28,32②,34,35, 42,58,62,63,64②,65,69④,70,72,84,87, 99②,113,119,132
相応しい	2	53,120

#### 4. 考 察

(1)要点 (結果から指摘できること)

- ①本文139頁に、英文字、カタカナ、漢字かな文字など多様な語句2,440が含まれる。
- ②カタカナ表記では、情報活用能力関係 [44] 学習指導関係 [24] 心理関係 [21] など幅広い知識が必要である。
- ③普段耳にしない難解な語句・難読熟語が多い。
- ④「重要である。」「大切である。」など心に突き刺さる表記が多すぎる。
- ⑤教師が81カ所で使用されており、解説は学校教師を念頭に編集されたものと理解される。



◎中島正明[安田女子大学教育学部]		総合的な学習の時間の研究		2017年8月31日 完成予定	
<b>第1章 総説</b>	<b>第5章 総合的な学習の時間の指導計画の作成</b>	<b>第7章 総合的な学習の時間の学習指導</b>	<b>第9章 総合的な学習の時間を充実させる体制づくり</b>		
<b>1 改訂の経緯及び基本方針</b>	<b>第1節 総合的な学習の時間における指導計画</b>	<b>第1節 学習指導の基本的考え方</b>	<b>第1節 体制整備の基本的考え方</b>		
(1) 改訂の経緯	1 指導計画の要素	1 児童の主体性の重視	<b>第2節 校内組織の整備</b>		
(2) 改訂の基本方針	2 全体計画と年間指導計画	2 適切な指導の在り方	1 校長のリーダーシップ		
<b>2 総合的な学習の時間改訂の趣旨及び要点</b>	<b>第2節 各学校において定める目標の設定</b>	3 具体的に発展的な教材	2 校内推進体制の整備		
(1) 改訂の趣旨	<b>第3節 各学校が定める内容とは</b>	<b>第2節 探究的な学習の過程における「主体的・対話的で深い学び」</b>	3 教職員研修		
(2) 改訂の要点	1 各学校が定める内容とは	1 「主体的な学び」の視点	<b>第3節 年間授業時数の確保と弾力的な授業時数の運用</b>		
<b>第2章 総合的な学習の時間の目標</b>	2 目標を達成するにふさわしい探究課題	2 「対話的な学び」の視点	1 年間授業時数の確保		
<b>第1節 目標の構成</b>	3 探究活動への参加を通して育成を目指す具体的な資質・能力	3 「深い学び」の視点	2 弾力的な単位時間・授業時数の運用		
<b>第2節 目標の在り方</b>	(1) 知識及び技能	<b>第3節 総合的な学習の指導のポイント</b>	(1) 授業時間の弾力化		
1 総合的な学習の時間の特質に応じた学習の在り方	(2) 思考力、判断力、表現力等	1 学習過程を探究的にすること	(2) 年間の授業時数の配当		
(1) 探究的な見方・考え方を働かせる	(3) 学びに向かう力、人間性等	① 課題の設定	3 授業時数に関する留意点		
(2) 横断的・総合的な学習を行う	4 考えするための技法の活用	② 情報の取集	(1) 年間指導計画及び単元計画における授業時数の配当		
(3) よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていく	5 内容の認定と運用についての留意点	③ 整理・分析	(2) 選択の適切な実施計画と管理		
2 総合的な学習の時間の明確で育成することを旨とする資質・能力	<b>第4節 全体計画の作成 [学習活動] [指導方法] [指導体制] [学習の評価等]</b>	④ まとめ、表現	3 学期ごとの進捗の適切な管理		
<b>第3章 各学校において定める目標及び内容</b>	1 単元計画の作成	2 他者と協働して主体的に取り組む学習活動にすること	<b>第4節 環境整備</b>		
<b>第1節 各学校において定める目標</b>	<b>第5章 総合的な学習の時間の年間指導計画及び単元計画の作成</b>	(1) 多様な情報を活用して協働的に学ぶ	1 学習空間の確保		
<b>第2節 各学校において定める内容</b>	<b>第1節 年間指導計画及び単元計画の基本的考え方</b>	(2) 異なる視点から考え協働的に学ぶ	2 教室内の学習環境の整備		
<b>第3節 各学校において定める目標及び内容の取扱い</b>	<b>第2節 年間指導計画の在り方</b>	(3) 力を合わせた交流したりして協働的に学ぶ	3 学校図書館の整備		
(1) ① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦	1 年間指導計画の在り方	(4) 主体的かつ協働的に学ぶ	4 情報機器の整備		
<b>第4章 指導計画の作成と内容の取扱い</b>	2 作成及び実施時の配慮事項	<b>第8章 総合的な学習の時間の評価</b>	<b>第5節 外部との連携の構築</b>		
<b>第1節 指導計画の作成に当たっての配慮事項</b>	(1) 児童の学習態様に配慮すること	<b>第1節 学習評価の充実</b>	1 外部との連携の必要性		
1 指導計画作成上の配慮事項	(2) 季節や行事など適切な活動時期を生かすこと	<b>第2節 児童の学習状況の評価</b>	2 外部連携のための留意点		
(1) ① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦	(3) 各教科等の関連を生かすこと	1 「目標」に準拠した評価」に向けた評価の観点の在り方	(1) 日常的な関わり		
<b>第2節 内容の取扱いについての配慮事項</b>	(4) 外部の教育資源の活用及び異校種との連携や交流を意図すること	2 評価基準の設定と評価方法の工夫改善	(2) 担当者や組織の設置		
(1) 主体性 (4) ボランティア (7) 学校図書館	<b>第3節 単元計画の作成</b>	<b>第3節 教育課程の評価</b>	(3) 教育資源のリスト		
(2) 協働 (5) 体験活動 (8) 国際理解	1 単元計画の基本的考え方	1 カリキュラム・マネジメントの観点からの評価	(4) 適切な打ち合わせの実施		
(3) コンピュータ (6) 異年齢 (9) 情報	(1) 児童の関心や疑問を生かした単元の構想 (2) 意図した学習を効果的に生み出す単元の構成	2 評価結果の活用	(5) 学修成果の発信		
	2 単元計画としての学習指導案				
	<b>第4節 年間指導計画・単元計画の運用</b>				

図1 総合的な学習の時間解説編の目次

(2)課題（指導上、改善すべき事項）

①総合的な学習の時間解説編には、巻末に語句索引がない。せめて専門用語・概念だけでも索引を巻末に用意すると、知りたい箇所を直ぐに参照できるので、ハンドブックとして活用できる。

②例えば、A：定義B：要素C：条件などを統一項目として設定して内容解説の整合性とわかりやすさを実現する。

③目次にさらに工夫を加えて、目次の表記を、今少し詳しくすること。  
具体例として、次の3点が指摘できる。

ケース1

第2章 総合的な学習の時間の目標

第2節 目標の趣旨

1 総合的な学習の時間の特質に応じた学習の在り方

(1)探究的な見方・考え方を働かせる

(2)横断的・総合的な学習を行う

(3)よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていく

ケース2

第4章 指導計画の作成と内容の取扱い

第2節 内容の取扱いについての配慮事項

(1)主体性

(4)ボランティア

(7)学校図書館

(2)協働

(5)体験活動

(8)国際理解

(3)コンピュータ

(6)異年齢

(9)情報

ケース3

第7章 総合的な学習の時間の学習指導

第3節 探究的な学習の指導のポイント

## 1 学習過程を探究的にすること

- ①課題の設定
- ②情報の収集
- ③整理・分析
- ④まとめ・表現

## (3)結語

- ①語句の分析を通して、小学校学習指導要領総合的な学習の時間を教員養成課程で指導することの難しさを感じ得る。
- ②使用される言葉の広がりから判断すると、指導担当者には、教育学、心理学、図書館学、国語教育学、情報学、経営学など広範に及ぶ専門知識が必要である。
- ③解説は、あくまでも解説であり、教本・マニュアルとして、教員養成課程においてその内容全体をきちんと指導すべきである。
- ④担当教員による指導内容・方法のバラツキを解消するには、少なくとも解説の目次と索引に工夫を凝らすことが必要である。
- ⑤解説の全体を俯瞰するために、見て直ぐにわかる内容の構造全体図が必要である。

## 注)

1. 「小学校学習指導要領解説総合的な学習の時間編総索引」というタイトルで、『児童教育研究』（安田女子大学児童教育学会）第27号 2018.03（印刷中）に資料として全データを掲載した。

## 参 考 文 献

- (1)文部科学省「小学校学習指導要領解説総合的な学習の時間編」([http://www.mext.go.jp/component/a\\_menu/education/micro\\_detail/\\_icsFiles/afiedfile/2017/07/25/1387017\\_14\\_1.pdf](http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afiedfile/2017/07/25/1387017_14_1.pdf)) 2017年8月3日閲覧。
- (2)東洋館出版部編集部編『平成29年版小学校 学習指導要領ポイント総整理』2017. (334頁)
- (3)東洋館出版部編集部編『平成29年版中学校 学習指導要領ポイント総整理』2017. (308頁)
- (4)無藤 隆「教職員に最低限周知すべき新学習指導要領の理念」『教職研修』45(13) 2017.9 教育開発研究所 pp.22～23.

〔2017. 9. 28 受理〕

コントリビューター：大庭 由子 教授（国際観光ビジネス学科）